報告

2024年7月5日 日本技術士会北海道本部 倫理委員会

第 14 回 技術者倫理フォーラム

~公衆から信頼される技術者になろう~

中埜渡 丈 嘉

まえがき

令和6年7月5日(金)、第14回技術者倫理フォーラムが「公衆から信頼される技術者になろう」と題して開催されました。平成22年にスタートした本フォーラムも、年々内容が充実し、今回も多くの参加者にご来場いただきました。技術者としての役割がますます多様化し、倫理観が一層求められる現代において、このフォーラムは、技術者が己の人生と向き合い、技術者としての責務を考える貴重な場となっています。



写真-1 フォーラム会場の様子



写真-2 旭川サテライト会場の様子

本フォーラムは、遠方の方も参加できるように、 ホテル会場とウェブ視聴によるハイブリット開催に より実施しておりますが、今年度は新たな試みとし て旭川サテライト会場で同時配信を行いました。

また、今年の10月には、技術士全国大会が10年振りに札幌で開催され、当倫理委員会も全国大会において第一分科会の開催を担当します。開催準備のため、役員の増員(副委員長2名、副幹事長1名)後、初めての倫理フォーラム開催でもあります。

1. 基調講演

今回の基調講演では、小樽商科大学大学院 商学研究科 アントレプレナーシップ専攻の泉貴嗣(よしつぐ)准教授をお招きし、「技術者と生活者、2つの人格の統合」というテーマでご講演いただきました。講演の副題は「人生のために倫理の射程を広げる」であり、技術者としての倫理観だけでなく、生活者としての倫理観を統合し、人生全体において倫理的に生きることの重要性が強調されました。

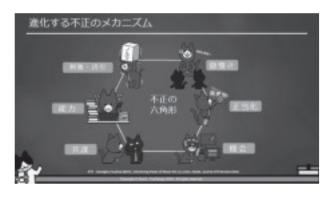


写真-3 基調講演 泉准教授

講演の冒頭では、現代社会における「自己家畜化」という現象について説明があり、生活の安定や保身のために、時として技術者としての倫理観が希薄になりつつある現状に警鐘が鳴らされました。泉准教授は、技術者は職業上の倫理だけでなく、生活の中でも倫理的な判断を下すべきだと提唱されました。特に、人生の総労働時間(22歳から65歳まで)に相当する9万時間という膨大な時間をどのように有意義に活かすかという問いかけがなされ、ゆたかな人生を送るためにも、技術者と生活者としての責任を果たすために、両者の倫理観を統合することが不可欠であると述べられました。

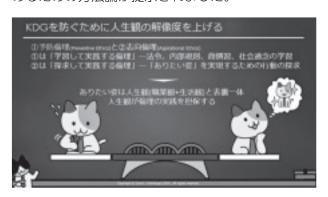


現代の技術者が直面する倫理的な課題を解決するためには、従来の枠組みにとらわれず、より柔軟な思考が必要であると泉准教授は指摘しました。企業のビジネスモデルや利益計画が技術者の倫理観に与える影響についても触れ、利益至上主義が倫理観を歪めるリスクが存在することが示されました。また、技術者はその役割に慢心せず、常に社会的な責任を自覚し、進化する倫理的な問題に対応するため、グループシンク(集団浅慮)のリスクを警戒することが必要であると述べられました。そのためにも多様性への理解が重要になってきます。



泉准教授はまた、技術者倫理における知識と行動

のギャップ(Knowing-Doing Gap: KDG)を埋めるためには、人生観(「ありたい姿」と表裏一体)の解像度を高めることが重要であると強調しました。単に倫理的な知識を持つだけではなく、「ありたい姿」を実現するため、実際の行動に結びつけることが求められるということです。具体的な事例を交えながら、技術者が直面する倫理的ジレンマや課題にどのように対処すべきかが説明され、倫理的判断力を高めるための方法論が提示されました。



また、泉准教授は、倫理観を実践するためにはエンプロイアビリティ(どこでも雇用される能力)の向上が重要であると指摘されました。エンプロイアビリティとは、技術者が自らの能力や価値を高め、変化する労働市場で柔軟に対応できる力を指します。これに加え、多様な価値観や経験を持つダイバーシティが、技術者の視野を広げ、倫理的判断力を向上させるための鍵であるとされました。ダイバーシティの経験が、技術者としての成長を促進し、倫理観のリスキリング(再習得)に繋がるとともに、倫理観は能力であることが強調されました。



講演の結びとして、泉准教授は「倫理観は会社のため、仕事のため『だけ』ではなく、人生全体のために必要なものである」とし、仕事と生活の両方を豊かにするために倫理観を統合することの大切さを説

かれました。これにより、技術者が長い職業人生を 心豊かに生き抜くための指針が示されました。

今回の基調講演は、イラストが多用されたスライドが印象的で、参加者は開始早々に、泉准教授の語り口に魅了されたようです。また、ビジネススクールの先生だけあり、技術者も経営(学)を知ることが技術者倫理の実践に不可欠との言及もあり、人生で大切なことについて多くの気付きを得ることができました。

2. WG 活動報告

本フォーラムでは、技術者倫理に関する過去、現在、未来をテーマとした3つの視点から、「信頼される技術者になるために~北の大地からの提案~」と題して、倫理委員会のメンバーによるWG活動報告が行われました。

(1) 過去班: 「日本の技術者倫理の始まり」

過去班は、日本の近代化と技術者倫理の形成に焦点を当てました。特に、明治期における技術者教育の発展と、北海道開拓において重要な役割を果たした技術者たちに注目しました。この時代、日本の技術者倫理がどのように育まれ、現代の倫理観にどのように影響を与えたかが議論されました。

注目されたのは、北海道開拓の歴史と共に歩んできた技術者、特に、廣井勇氏や青山士氏といった北海道に縁のある技術者たちが、どのようにして技術者倫理を体現し、日本のインフラ整備に貢献してきたのかが詳述されました。彼らの思想や行動が、現代の技術者に与えた影響についても考察され、過去から学ぶべき教訓が強調されました。

また、1938年に策定された「土木技術者の信条及び実践要綱」と現行の土木学会倫理規定を比較し、彼らの倫理観が後世にどのように受け継がれてきたかが考察されました。この考察を通じて、技術者の倫理観が単なる技術的スキルの向上だけでなく、社会全体への貢献という視点でも重要であることが強調されました。



写真-4 WG 活動報告 庭田技術士(過去班)

(2) 現在班: 「現代の技術者倫理の実践と課題」

現在班では、過去班が取り上げた偉大な技術者たちの思想が、現代の技術者にどのように活かされているかを考察しました。具体的には、北海道の社会資本整備や災害復旧活動において、過去の技術者たちの理念が引き継がれ、今日の技術者が社会に対してどのように貢献しているのかが紹介されました。

しかし、現代の技術者は、利益至上主義やコマーシャリズムの影響を受け、倫理的な判断を行うことがますます難しい環境に置かれています。こうした状況下で技術者がいかに倫理観を堅持し、社会の期待に応えるかが課題とされました。

さらに、技術者の倫理学習についても議論が行われ、これまでの予防倫理だけでは解決できない状況があると指摘がなされました。技術の進展が急速に進む中で、学びを現場での実践に結び付け、他者との協力を伴わなければ倫理問題を解決することは困難であると考えられ、技術者としての新たな学びと実践の必要性が強調されました。



写真-5 WG 活動報告 長谷川技術士(現在班)

(3) 未来班: 「未来の技術者倫理の展望」

未来班では、過去班と現在班の考察を踏まえ、未 来に向けた技術者倫理の方向性について考察しまし た。特に、以下の3つの視点から倫理研究が行われ ました。

○予防・志向の技術者倫理観

未来の課題解決には、画一的な手段ではなく、複数の視点を組み合わせたアプローチが必要とされます。予防倫理と志向倫理の両方を活用することで、技術者が直面する新たな問題に対処するための倫理的行動が促進されると考えられました。

○技術者倫理教育

従来の予防倫理に加え、技術者としての大志を抱かせる志向倫理や、先達の足跡に学ぶ徳倫理のカリキュラムを導入する必要性が議論されました。これにより、未来の技術者が高い倫理観を持って社会に貢献できるような教育が求められています。

○技術者の Well-being

個人の Well-being を追求しつつ、技術者としての職業人としての Well-being を確保するため、多様な働き方や生き方に対応する必要があります。未来においても技術力の向上を目指し、社会貢献を続けることが技術者の Well-being の確立につながると提案されました。



写真-6 WG 活動報告 小川技術士(未来班)

これらの報告を通じて、「Be Ambitious」 = 「技術者の大志・覚悟」によって、複雑に絡み合う現代社会の課題に対し、今後も積極的に関わる決意が述べられました。「過去から現在そして未来へ」、多くの技術者の不断の努力により、真の倫理観の堅持・実践

を目指すことが熱く語られ、本フォーラム WG 活動報告のまとめとなりました。

3. 情報交換会

フォーラム終了後には、恒例の情報交換会が開催され、参加者同士が活発に意見交換を行いました。 技術者倫理に関する多様な視点が飛び交い、これからの技術者に求められる倫理観についての議論が深まりました。また、参加者からは今後の技術者倫理フォーラムへの期待や提案も多く寄せられ、フォーラムは盛会のうちに終了しました。



写真-7 情報交換会

情報交換会の最後には、参加者全員で記念写真を 撮影し、技術者倫理の更なる発展を祈念して会はお 開きとなりました。

あとがき

第 14 回を迎えた技術者倫理フォーラムですが、これからも技術者倫理の重要性を広めていく活動を続けてまいります。倫理委員会では、今後も技術者が社会に貢献できるような倫理的な考え方や行動を学び、広める場を提供し続けます。また、新しいメンバーの参加も歓迎しておりますので、技術者倫理に興味をお持ちの方はぜひご参加ください。皆様のご協力を心よりお待ちしております。

中埜渡 丈 嘉(なかのわたり たけよし) 技術士(建設/上下水道/総合技術監理部門) 日本技術士会北海道本部 倫理委員会 副委員長 株式会社ドーコン

